

第二章 変体仮名

- ・明治三十三年（一九〇〇）に平仮名が制定される以前は、同じ音の仮名が複数あった。例えば「は」は「ha」「と読む仮名は、「波」「者」「盤」「葉」「半」などを字母とする仮名があった。

はくわいふ

更に使用頻度は高くないが、「芳」「破」「羽」「婆」などを字母とする仮名もあった。

明治以前の日本人は、これらの複数の仮名を、場面に応じ使い分けていたのである。

- ・明治三十三年、帝国教育会国語改良部が

「同音ノ仮名ニ数種アルヲ、各一様ニ限ルコト」

を決めた。これを受け、同年中小学校令施行規則が改正され、小学校で教えられる仮名の字体が「一音に一字」に絞られ、これが「平仮名」となった。すなわち「波」を字母とする「は」が選ばれたのである。

- ・選ばれなかった仮名は「変体仮名」とよばれ、「平仮名の異体字」の扱いとなった。これ以降は、店の看板や、書道、地名、人名など限定的な場面で使われているが、一般には教えられることがなくなった。

- ・江戸時代の文章は、漢字と仮名で構成されていたが、武家文書や公式文書では漢字が主体で、仮名を助詞などに補助的に使っていた。

逆に庶民の読み物（草紙など）などでは、変体仮名を含む仮名が主体で、「くへ一部に易しい漢字が使われていた。

- ・どのような場合にどの変体仮名を使うか、などの法則は特にないが、傾向として

- ・ 主格の助詞「は」には「者」「盤」が使われる。

- ・ 助詞の「て、に、を、は」には「テ、ニ、ヲ、ハ」のカタカナが使われる事が多い。

- ・ 方向、行先を示す「へ（え音）」には「江」が多く使われる。

しかしこれらは絶対的なものではない。

- ・ 一度使った仮名の近いところには、同じ仮名の使用を避け、別の仮名を使う傾向があり、結果、いくつもの同音の仮名を使い分ける事がある。（特に擬古文など）

変体仮名一覧表 参照

ア	阿	イ	伊	ウ	宇	エ	江	オ	於
カ	加	キ	機	ク	久	ケ	介	コ	己
サ	散	シ	之	ス	須	セ	世	ソ	曾
タ	多	チ	千	ツ	川	テ	天	ト	止
ナ	奈	ニ	仁	ヌ	奴	ネ	祢	ノ	乃
ハ	八	ヒ	比	フ	不	ヘ	部	ホ	保
マ	末	ミ	三	ム	牟	メ	女	モ	毛
ヤ	也			ユ	由			ヨ	與
ラ	良	リ	利	ル	流	レ	礼	ロ	呂
ワ	和	ヰ	井			エ	恵	ヲ	乎
ン	尔								

(注) カタカナ
 ・片仮名もはじめは一音に対し複数の字があったが、平安中期には一音一字へ統合する傾向が強まり、早い段階で今とほとんど同じような片仮名となった。
 ・但し、ネ音を示す「子」が明治時代まで広く使われていた

東照宮御遺訓

盤

人の一生は重荷を負て遠

幾越可 以楚具弊
 き道を行か如しいそくへ

可須 登於
 からす不自由を常とおもへは不

那古路尔 於
 足なしころに望おころは困窮

多須 春
 したる時を思ひ出すへし堪忍は無

可於
 事長久の基いかりは敵とおもへ勝

越連
 事はかり知てまくる事をしらされ

尔多 於乃連越
 は害其身にいたるおのれを責て人をせ

多
 むるな及ざるは過たるよりまされり

明治十一年冬日 正四位松平確堂謹書

東照公御遺訓

人の一生は重荷を負て遠き

道をゆくが如し いそぐべからず

不自由を常とおもへば不足なし

ころに望おころば困窮したる

時を思ひ出すべし堪忍は無事

長久の基 いかりは敵とおもへ

勝事ばかり知てまくる事をしら

ざれば害其身にいたる おのれ

を責て人をせむるな 及ばざる

は過たるよりまされり

変体仮名 演習

問題1 次の平仮名のもとになる漢字(字母)書いて下さい。

- ① く ()
- ② も ()
- ③ せ ()
- ④ こ ()
- ⑤ ふ ()
- ⑥ お ()
- ⑦ す ()
- ⑧ と ()
- ⑨ る ()
- ⑩ て ()
- ⑪ わ ()
- ⑫ は ()
- ⑬ こ ()
- ⑭ う ()
- ⑮ な ()
- ⑯ け ()

問題2 次の平仮名のもとになる漢字(字母)書いて下さい。

- ① え ()
- ② か ()
- ③ て ()
- ④ さ ()
- ⑤ む ()
- ⑥ や ()
- ⑦ を ()
- ⑧ あ ()
- ⑨ ち ()
- ⑩ し ()
- ⑪ こ ()
- ⑫ と ()
- ⑬ な ()
- ⑭ へ ()
- ⑮ の ()
- ⑯ け ()

問題3 「いろは」の「は」の平仮名の字を「は」の漢字の字で書いて下さい。

(濁点無視)

例 色は匂へど散りぬるを 以呂波仁保部止知利奴留遠

我が世誰ぞ常ならむ
有為の奥山今日越えて
浅き夢見し酔ひもせず

問題4 「いろは」の「は」の平仮名以外の同音の変体仮名の字母で書いて下さい。解答は一通りではありません。

例 色は匂へど散りぬるを 伊路者尔本編登千里怒流越
我が世誰ぞ常ならむ
有為の奥山今日越えて
浅き夢見し酔ひもせず

問題5 次の仮名を解読して下さい。

①	く	②	ふ
()	()	()	()
③	る	④	お
()	()	()	()
⑤	へ	⑥	さ
()	()	()	()
⑦	を	⑧	と
()	()	()	()
⑨	な	⑩	あ
()	()	()	()
⑪	し	⑫	こ
()	()	()	()
⑬	て	⑭	か
()	()	()	()
⑮	え	⑯	む
()	()	()	()

問題6 次の仮名文を解読して下さい。

①  ② 

③  ④ 

⑤  ⑥ 

問題7 次の仮名文を解読して下さい。

①  ② 

③  ④ 

⑤ 

問題7 次の文章は課題文書7の書き下し文の一部です。原文を見ながら仮名部分の字母を横に書加えてください。

(一行目は解答例)

伊徒連乃 尔加 安末多
いづれの御時にか、女御更衣あまた

さぶらひ給けるなかに、いとやむことな

まゝにはあらぬか、すべねてとま

めきたまふありけり、はじめよりわ

れはとおもひあかり給へる御方かたく

めさましき物におとしめうねみた

まふ、おなしほど、それより下らうの

更衣たちは、ましてやすからず、あ

さめうのみやつかへにつけても、人の

ころをのみうごかし、うらみをおふ

しものこやあさけむ、ことあつ

(漢字はそのまま)